



Eiche

# Die Eiche ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナースィングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

## 新春講演会 開催



平尾泰男先生ご夫妻を囲んで



挨拶される臼井名誉会員

当協会恒例行事である新春講演会は1月26日(土)の14:30よりJR京葉線海浜幕張駅前のワールド・ビジネス・ガーデン、マリブイースト14階の千葉県国際交流センター 研修室に東京大学名誉教授で、放射線医学総合研究所名誉研究員の平尾泰男先生(当協会平尾会長のお兄様)をお迎えして、「重粒子線によるがん治療」と題して治療困難といわれる癌の先端的な治療法について、その開発から現在に至るまでを説明していただいた。

要旨は、下記のとおりであるが、治癒率の高さは注目される。講演会終了後、徒歩5分の幕張テクノガーデン、D棟24階にある居酒屋「土間土間」にて懇親会を開催。臼井日出男名誉会員にも途中から参加していただいた。また、林静誠顧問から、知人がやはり治療困難と診断された癌を放射線医学総合研究所で完治してもらった話などが紹介された。

「重粒子線によるがん治療」 平尾 泰男

日本分析センター会長

放射線医学総合研究所名誉研究員

医用原子力技術研究振興財団常務理事

東京大学名誉教授、理学博士

近代物理学は、ヴェルツブルグの大学の物理学教室で、一八九五年十一月、レントゲンがX線を発見したのを端緒としている。その発展の過程でドイツでは、HahnとMeitner がウラニウムの核分裂を発見して原子力開発の扉を開いた。X線発見の当初からその透過性に着目した医療診断への応用は、かの発明王 Edison (エジソン) の身体透視装置開発に始まり、以来加速装置の進歩による線源の進化やコンピュータの発達とともに着実に高度化を果たし、今や医療に不可欠な技術となっている。しかしながら、期待されたがん治療への応用は、捗々しくは進まなかった。

わが国でも戦前・戦中、理化学研究所、阪大、京大に建設された様々の応用研究を含む核物理研究施設は、一四五年秋の敗戦直後に、核兵器開発施設と見做されて占領軍によって破壊され、関連する全ての研究は禁止された。その後、研究施設再建はこれら三箇所で行なわれ、阪大では一九五四年、私も参画して再建された。一九七七年、私は東大原子核研究所で高エネルギー重粒子加速器計画を提案したが、実現困難と判断されて実現しなかった。そこで私は全ての技術開発を成功裏に実施して、その技術的可能性が世界的に理解されることとなった。そして、ドイツのダルムシュタットで、その開発研究を基盤とする研究施設が実現した。私は一九七九年、がん治療専用重粒子線加速装置の提案をしたが、やがて一九八三年、中曽根内閣が「対がん十力年総合戦略」を策定したとき、当時の科学技術庁により、重粒子線がん治療装置開発がようやく開始される運びとなった。一九八七年、千葉市内の放射線医学総合研究所(放医研)に開発・建設の予算が付くや、私は東大から放医研に移り、放射線物理学的・放射線生物学的特性の両面から、原理的には優位である重粒子線の効果を臨床的に実証すべく、一九九四年六月臨床試験を開始した。(以下、次ページへ続く)

## — 今後の主な催し物案内 —

## 1. 2008年度総会

日時：2008年5月17日(土) 14:00~17:30

場所：フローラ西船(JR 総武線西船橋駅より  
徒歩3分

(TEL: 0120-262427)

式次第：総会 14:00~15:00

講演 15:10~16:00

講師 千葉県総合企画部国際室  
室長 浜本憲一様

演題 「千葉県の国際交流政策」

懇親会 16:10~17:30

会費：5,000円

## 2. 春季勉強会のご案内

6月に実施するドイツ視察旅行を有意義なものとするべく、予備知識の勉強会を下記のとおり実施致しますので、旅行に参加されない方も是非共  
ご参加下さい。講師はいずれも当協会役員です。

記

日時：下記。①は13:30~14:30②は14:40~16:10

場所：船橋中央公民館(JR、京成船橋駅から徒歩  
5分)

TEL:047-434-5551

会費：参加回数にかかわらず 2,000円

第1回：4月24日(木)

①平尾浩三氏 「ゲーテとその詩情」

②国枝誠昭氏 「マルチンルターの生涯」

第2回：4月30日(水)

①橋口昭八氏 「デュッセルドルフの日本デー」  
「東部ドイツの見所」

②友野信善氏 「バッハ・音楽の故郷 ドイツ」

第3回：5月31日(土)

①野村陽子氏 「ベルリンと私の音楽生活」

## お知らせ

## 1. 「千葉県国際交流センター」へ入会

「千葉県国際交流センター」は、千葉県の国際化を推進するための中核的な機関になることを目指し、国際交流に関する情報、活動の場の提供、相談などを行うことを目的に、平成4年幕張に開設されました。当協会も昨年末、「賛助会員」として入会しましたのでお知らせします。研修室の使用(無料)、資料コーナーの閲覧、ロビーなども利用可能です。会員の皆さんもどうぞご利用下さい。

所在地：千葉市美浜区中瀬2-6

マリブイースト 14階

執務時間：平日 午前9時~午後5時

(休館日：土日・祝日、年末年始)

電話番号：043-297-0245

## 2. ドイツ視察旅行

6月のドイツ旅行には、会員、会員の家族、会員の友人を含め、38名の方々の応募がありました。

今年のデュッセルドルフ・日本デーでは、会員で日本舞踊・藤蔭流師範の大嶋里衣子さんに千葉県を代表し日本舞踊を披露してもらう予定です。なお、今回は日本デーに引き続き「ゲーテ街道」を旅行しますが、事前勉強会を左記の通り実施しますので、旅行に参加されない方も奮ってご参加下さい。

## 3. デュッセルドルフ市研修生歓迎パーティー

昨年12月、デュッセルドルフ市育英基金研修生としてF. カイザー氏(デュッセルドルフ商工会議所所員)、W. ツァンダー氏(デュッセルドルフ手工業会議所部長)及びA. ボーシェム氏(デュッセルドルフ市役所職員)の3名が来日、6日に千葉県庁の手配で柏市の東葛テクノプラザを訪問後、彼等を迎えて、大島会員宅で藤蔭流日本舞踊を披露し、続いてテクノガーデン24階の居酒屋「土間土間」で会員有志20余名が参加して歓迎懇親会を催しました。

そして、重粒子線の中で炭素線を最も適切なものと選択し、以来十数年に亘つてもっぱら炭素線によるがん治療試験の臨床実績を集積した。

顕著な成果を列挙すると、重粒子線がん治療装置が一度の故障も無く世界一安定的に稼働し続けていること、三千七百を超える炭素線治療の臨床症例一度の医療上のトラブルもなく成果を蓄積し続けていること、難治がん(X線・抗がん剤の効かないがんや切除不可能な部位に発生したがん等)に対する高い局所制御率と低い副作用発生や超短期分割照射法の有効性・安全性を実証したこと(X線、陽子線は三十回分割照射が世界的標準であるのに対して、放医研の炭素線治療では肺がん、肝がん等は現在二回照射が標準)、これらの経過により二〇〇三年に厚生労働省より「固形がんに対する重粒子線治療」として先進医療の承認を得たこと、ドイツを初めEU諸国は日本の実績を根拠に炭素線治療施設の建設を数多く開始していること等々、一言で言えば炭素線照射治療をがん治療の有力な選択肢の一つとして確立したことであろう。

炭素線治療は、身体の深い所の腫瘍に対して、精密、鋭利、無痛、無菌、短期間等々の利点を持った治療であり、これを日本発の医療技術として海外に発信し、一人でも多くの適応がん患者にこの治療法を提供したいと願っている。

以上

○放射線医学総合研究所は、四月二十日(日)午前十時~午後五時一般公開されます。見学希望の方はお出掛け下さい。(JR稲毛駅徒歩十二分)